

「情報社会における日本の教育と家族 - インターネット応用の可能性」

“ Japanese Education and the Family in the Information Age Society:

Possibilities for Using the Internet. ”

Fumie Kumagai, Ph.D. (熊谷文枝)

Kyorin University (杏林大学)

要旨

グローバリゼーションの進展と共に、インターネットはコミュニケーションの手段として、近年不可欠のインフラストラクチャーとなってきた。情報社会においては、ADC（自律・分散・協調）原理は、必要不可欠のものとして理解されている。それは、特に教育および家族を考察する場合に当てはまることである。

グローバル社会における日本の威信失墜の原因の一つとして、日本の教育制度を考えることができる。つまり、全体の統一性を強調する結果、必然的に個人の独創性および創造性を排除することになる。したがって、日本がグローバル社会で世界のパートナーとして生き残るためには、教育制度の初期段階から最終段階に及ぶまで、全般的に見直す必要がある。それは、とりもなおさず情報社会における社会経済的要請にこたえる教育改革を打ち出すことである。

そこで、本論分では、教育と家族を関連させて、情報社会における日本の教育改革を五つの発展段階から考察する。つまり、コミュニティーネットワーク、デジタルキッズと参加型初等教育、グローイングアップデジタルと中等教育、オンライン高等教育、そして、高齢者のためのIT教育である。

急速に進展するグローバル社会において、日本が世界各国と共に真の意味でのパートナーとして存在するためには、日本の教育制度の全般的改革が急務である。さもなければ、日本のグローバル社会における存在価値は甚だ脆弱なものとなることは疑う余地がない。

キーワード： 日本の教育、情報社会、遠隔地教育、コミュニティーネットワーク、ADC（自律・分散・協調）